

石和温泉地域における地域活性化に関する調査

○（調査の背景・目的）

石和温泉は鉄道や高速道路など首都圏からのアクセス性もよく、団体向けの温泉観光地として発展してきたが経済情勢の変化や観光客のニーズの多様化などもあり、全国的に温泉観光地の宿泊客数の減少がみられるようになり、石和・春日居温泉地域においてもかつての賑わいや活気が失われつつある。こうした背景を踏まえ、本調査は民間事業者の施設整備と連携した笛吹市石和温泉地域の活性化実現に向け、観光客（外国人含む）及び市民等のニーズや現地状況について調査を行い、この結果を基にマーケティング施策、整備効果検討のほか、アクセス道路・公園整備概略検討（基盤整備）を行ったものである。

調査結果

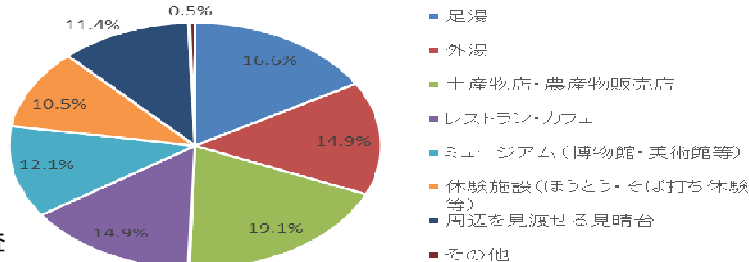
①観光客及び市民等のニーズの把握・現地状況調査

商業施設やマルシェ、公園、緑地を望む声が多く、外国人は体験型施設、空間整備に対するニーズが高い。現地状況調査では、幅員の狭い道路が多く観光バス等に支障を与えている。

②河川利活用調査 ③アクセス道路検討調査

- ・地域の特産品を楽しめるエリア
- ・用水浴いを散策できる遊歩道と一体整備

石和・春日居温泉地域における施設整備に対する意向（WEB調査）

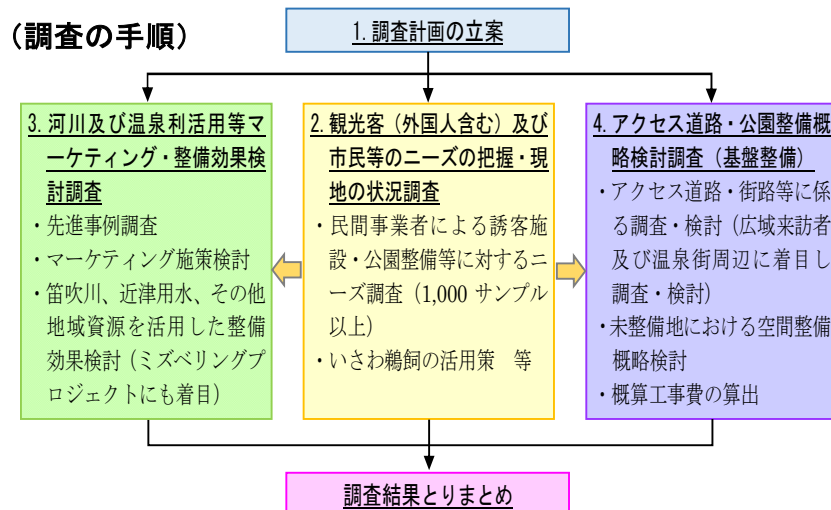


温泉街の魅力の向上、新たな観光資源の創出を図り、イベントの場等としての利用を通じて賑わいを創出する。

近津用水のイルミネーション実施イメージ



（調査の手順）



基盤整備の見込み・方向性

アクセス道路整備については、現状の課題や実現の難易、未整備地の利活用と合せた課題解決の可能性等を総合的に勘案し、基盤整備として①労報橋架け替え、②未整備地東側道路の拡幅、③未整備地内における接続道路整備を行い、課題の解消を図ることが有効であると判断した。基盤整備の時期については、未整備地の利活用を含め、東京オリンピックによる観光客増を見込み、平成27年度から概算設計を行い～平成29年度中の完成及び供用開始を目標に定めた。

今後の課題

マーケティング施策

○民間事業者の参画の見通し等を踏まえた施設整備、運営体制等について具体化していく。

○アクセス道路検討

現状の道路交通への影響等を考慮し、詳細検討を行う

○未整備地利活用

付加価値を与える工夫（魅力付け）が必要である。

石和温泉地域における地域活性化に関する調査			
調査主体	笛吹市		
対象地域	山梨県笛吹市	対象となる 基盤整備分野	道路、都市公園等

掲載

(項目例)

1. 調査の背景と目的

石和温泉は鉄道や高速道路など首都圏からのアクセス性もよく、団体向けの温泉観光地として発展してきたが、経済情勢の変化や観光客のニーズの多様化などもあり、全国的に温泉観光地の宿泊客数の減少がみられるようになり、石和・春日居温泉地域においてもかつての賑わいや活気が失われつつある。

こうした背景を踏まえ、本調査は民間事業者の施設整備等と連携した笛吹市石和温泉地域の活性化実現に向け、観光客（外国人含む）及び市民等のニーズや現地状況について調査を行い、この結果を基にマーケティング施策、整備効果検討のほか、アクセス道路・公園整備概略検討（基盤整備）を行ったものである。

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

調査期間：平成 26 年 11 月上旬～平成 27 年 3 月上旬

対象箇所：笛吹市石和・春日居温泉地域及びその周辺

調査項目：①観光客（外国人含む）及び市民等のニーズの把握・現地の状況調査

②河川及び温泉利活用等マーケティング・整備効果検討調査

③アクセス道路・公園整備概略検討調査（基盤整備）

調査範囲：下図参照



図 1 調査対象範囲

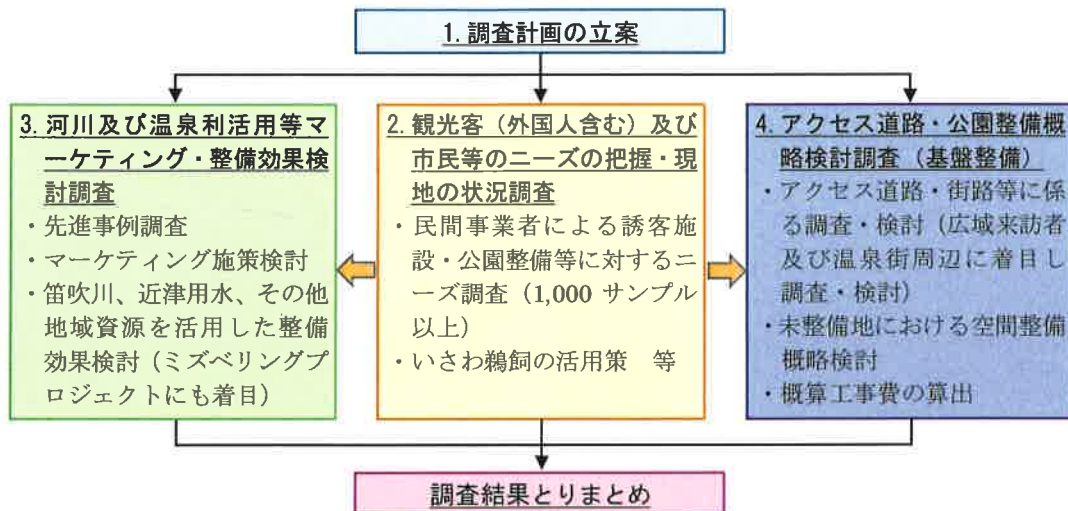


図 2 調査手順（実施フロー）

(2) 調査結果

1) 観光客（外国人含む）及び市民等のニーズの把握・現地状況調査

① 観光客及び市民等のニーズの把握調査

石和・春日居温泉地域の活性化に向けた来訪者及び地域のニーズを把握するため、アンケート調査を実施した。アンケート調査は、短期かつ確実に回答が得られ、広範囲に実施可能なWEB調査を中心に実施した。なお、笛吹市では平成26年度に別途「笛吹市観光市場動向調査」を実施しており、この内容を考慮した設問を設定するとともに、市場動向調査結果もマーケティング施策等の検討に反映した。

WEB調査（1,000サンプル）

- 広範囲
- ・日本人（一般）
 - ・在日外国人



紙面調査（113サンプル[260票配布]）

- 石和・春日居温泉地域
- ・地元住民
 - ・事業者等（関係者）



図 3 調査イメージ

表 1 WEB調査の被験者属性

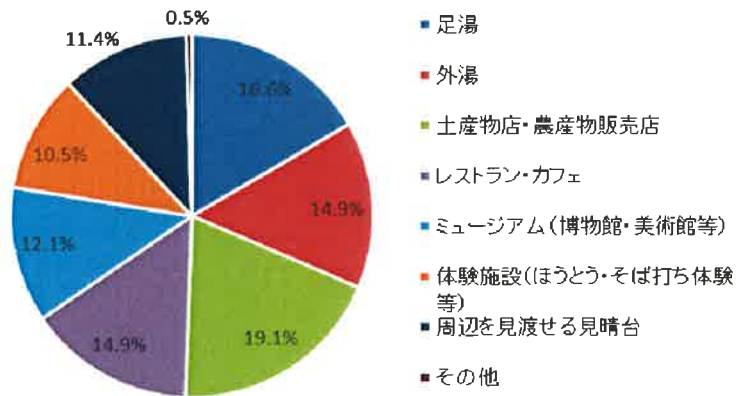
地域	サンプル数
県内	250
県外	700
東京	218
神奈川	115
静岡	115
埼玉	78
長野	66
千葉	58
東海（愛知・岐阜・三重）	50
在日外国人	50

《アンケート結果概要》

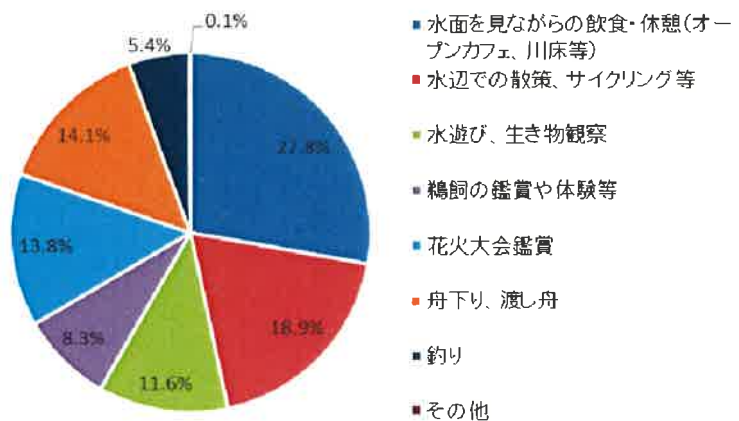
- 旅行形態・来訪エリア：個人旅行（宿泊、日帰り）が多く、石和温泉駅周辺、さくら温泉通り周辺への来訪が中心となっている。
- 観光資源・来訪目的：来訪目的は温泉やワイナリー、フルーツであり、地域住民が認識する当該地域の主な観光資源と一致している。
- 当該地域での過ごし方：温泉、食事が多く、通過型観光として利用傾向がうかがえる。
- 施設整備：WEB アンケートでは特定の回答に集中することなく、ニーズは多様と考えられる。地域住民からは商業施設やマルシェ、公園・緑地の回答が比較的多い（ショッピングモールやアウトレット等については、WEB 調査の自由回答でも複数みられた）。
- 空間整備：マルシェや遊歩道のある広場の回答が多い。外国人は、体験型の施設、空間整備に対するニーズが日本人に対してやや高い傾向がうかがえた（ほうとう・そば打ちが体験できる施設やイベント、バーベキュー等ができる広場の整備）
- 水辺の利活用：カフェや散策に対するニーズが高い。日本人については、親水活動に対するニーズも比較的高いと考えられる。
- 当該地域の印象：地域住民は石和・春日居温泉地域に対して賑わい・魅力をあまり感じておらず、イベントの企画・開催や情報発信などソフト対策も重要視されている（WEB アンケートにおいても同様の回答が確認された）。

WEB 調査

石和・春日居温泉地域における施設整備に対する意向

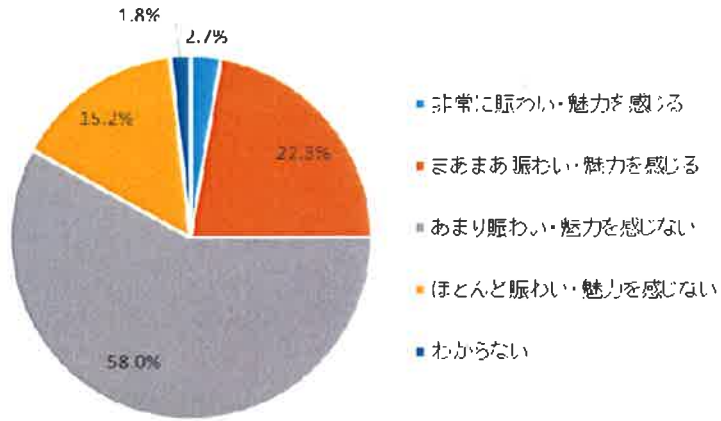


笛吹川や近津用水など身近な水辺の利活用に関する意向

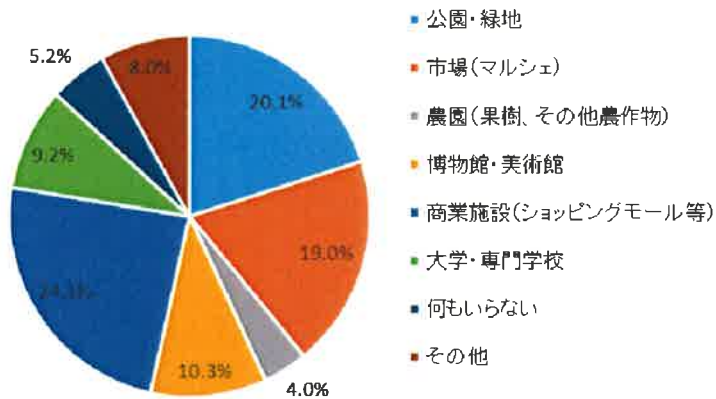


紙面調査

石和・春日居温泉地域
に対する印象



石和・春日居温泉地域
における施設整備に
対する意向



②現地の状況把握

現地の状況調査では、宿泊施設や観光資源等の分布状況のほか、自動車及び人の流れと動線の競合状況等に着目した。また、活性化に向けた水辺の利活用も念頭に、笛吹川、近津用水について現状の整備状況、や危険箇所の有無等について調査・整理を行った。

表 2 現地の状況調査結果概要

項目	確認結果
交通量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道、県道を中心に自動車の交通量が多い。 ・ さくら温泉通り、郵便局通り、北小通り・湯けむり通り等も生活道路として利用されており、比較的交通量は多い。
道路状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労報橋は幅員が狭く、交互通行となっている。 ・ 石和温泉街では幅員の狭い道路や交差角が鋭角である道路も多く、大型観光バス等の通行に支障を与えていると考えられる。 ・ 歩道のない道路が多く、自動車、歩行者・自転車の動線が競合している。
水辺整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笛吹川・石和橋～鶴飼橋間で親水護岸整備が実施済みである。 ・ 石和ふれあいゾーンとして地域住民の憩いの場所となっているほか、鶴飼（徒歩鶴）や花火大会の会場としても利用されている。 ・ 国土交通省・川の通信簿調査でも高評価を得ている。 ・ 西川区間では親水護岸の整備が実施済みであるが、通路が不連続、また水面までの高さがあり、実際に水に触れられる箇所は少ない。 ・ 近津用水、第二平等川区間は転落防止柵が付いており、護岸も急勾配のため、現状における親水利用は困難である。
観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡等は国道 411 号（市部通り）沿いにまとまってみられる。 ・ 宿泊施設はさくら温泉通り、湯けむり通り、駅前通りを中心に分布している。

2) 河川及び温泉利活用等マーケティング・整備効果検討調査

① 先進事例調査

地域資源を活用した活性化方策を検討するにあたり、全国を対象とした先進事例調査を実施した。調査にあたっては以下の観点に着目した。

《先進事例調査における着眼点》

- 温泉街その他観光地における活性化事例
- 民間事業者の参画による活性化事例
- 地元特産品を活用した活性化事例（ご当地グルメ等含む）
- 水辺を活用したまちづくり事例（かわまちづくり、ミズベリング等）
- 健康増進、福祉、医療等をテーマとした活性化事例

② マーケティング施策検討

アンケート調査によって把握された来訪者及び地域住民・関係者等のニーズや先進事例調査結果を踏まえるとともに、過年度実施された「笛吹市国土施策創発調査（石和温泉地域）」や今年度別途実施された「笛吹市観光市場動向調査」の結果も参考としつつ、当該地域を流れる笛吹川、近津用水の活用を念頭に、石和・春日居温泉地域と一体となったまちづくりや活性化に資する施策について検討を行った。

表3 水辺を活用したマーケティング施策（案）

場所	施策名	概要
笛吹川	カフェ・レストラン	笛吹川は散策やサイクリング、釣りの場等として利用されており、休憩・立ち寄りスポットとなることが期待される。
	鶺鴒飼育・見学施設	来訪者が快適に鶺鴒の様子を見学できる施設を整備することで当該地域の特徴的な観光資源である鶺鴒を広くPRできる。
	足湯	新たな立ち寄りスポットを創出し、既存の足湯を合わせた足湯めぐりなどによって周遊性を高め、滞在型観光に活かす。
	駐車場	現在は徒歩、自転車での来訪が中心であり、日常利用のほか、イベント、MIZBERING活動等における利便性の向上を図る。
	バーベキュー広場	身近な水辺の活用及び利用促進のほか、山や川など地域の自然を感じながら過ごせる場を創出する。
	散策路	既存の散策路の延長、さくら温泉通りなど街路との接続を行うことで、まちとのつながりを強化し、周遊性を向上させる。
近津用水 ・西川 ・第二 平等川	カフェ・川床	カフェや川床を設置することにより、石和温泉街への来訪客、地元住民の昼間・夜間の利用を促し、賑わいを創出する。
	遊歩道	既存のウッドデッキを下流区間へ延長し、水辺空間の機能向上、歩行者の安全確保、まとまりのある街並み形成を図る。
	桜並木(植樹)	既存の桜並木を下流区間へ延長し、温泉街の魅力向上、まとまりのある街並み形成を図る。
	イルミネーション	温泉街の魅力の向上、新たな観光資源の創出を図り、イベントの場等としての利用を通じて賑わいを創出する。



出典：隅田川みどころマップ

水辺におけるカフェの設置事例
(隅田川・東京都台東区)



出典：国土交通省 HP

水辺に整備された足湯の事例
(温海川・山形県鶴岡市)

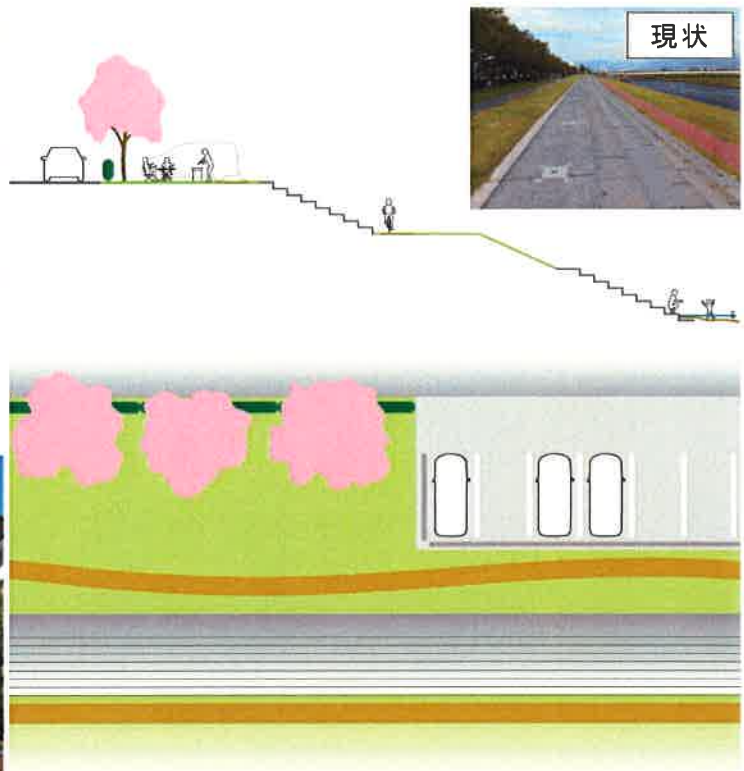


図4 笛吹川・堤防天端の利活用イメージ



現状



実施後

写真1 近津用水のイルミネーション実施イメージ

③整備効果検討

先進事例調査やマーケティング施策検討の結果等を踏まえ、整備効果について検討・整理した。

今後は、施策のさらなる具体化を図るにあたり、右図に示すような観点を参考に整備優先度を検討・設定し、活性化に向けた取り組みを推進していく。

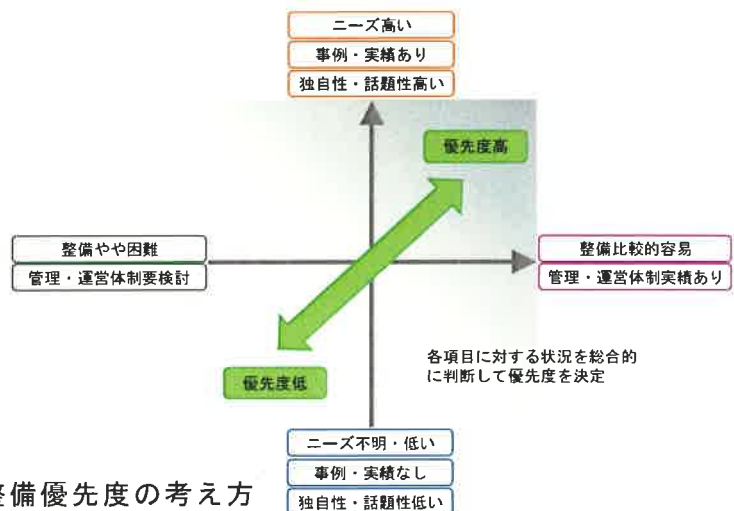


図5 整備優先度の考え方

3) アクセス道路・公園整備概略検討調査

①アクセス道路概略検討

アクセス道路概略検討は、石和・春日居温泉地域における道路・街路の状況と自動車及び自転車・歩行者の動線との関係からアクセスの難易や安全性の確保等の観点から整理を行い、当該地域への来訪者のアクセス性向上に向けた道路・街路整備について検討した。

石和・春日居温泉地域への来訪手段は、主に自家用車・レンタカー、観光バス・マイクロバス、高速バス、鉄道（JR 中央本線）と想定される。さらに、高速バス、鉄道による来訪客は、当該地域到着後、送迎車、バス、タクシー、自転車、徒歩によって目的地まで移動すると考えられる（下図）。これを踏まえ、当該地域における来訪者の移動手段を自動車と徒歩・自転車に区分し、主な目的地を「石和温泉駅付近」、「石和温泉街（近津用水及び湯けむり通り付近）」、今後整備予定の「未整備地」とした場合の動線として以下の通り設定し、それぞれの現状と課題を整理した。

《石和・春日居温泉地域におけるアクセスに関する課題》

自動車

- 国道 411 号線（市部通り～笛吹川通り）と県道 208 号（彩甲斐橋通り）に挟まれる石和温泉街は、道路幅員の狭い道路が多く、一方通行となる道路もみられ、特に大型観光バスについては南北方向の移動経路が限定される。
- 大型車両については当該地域西側から石和温泉街へのアクセスが困難であり、さくら温泉通り東入口方面に迂回する必要がある。
- 労報橋は幅員が狭いため交互通行となっている。
- 北小学校付近の交差点は交差角が鋭角であり、駅と温泉街の相互移動に際してネック箇所となっている。
- 当該地域には都市計画道路が予定されており、将来的にアクセス性が向上することが期待されるが、現状では整備時期が未確定である。

自転車・歩行者

- 主要道路を除く多くの道路で歩道が整備されておらず、安全性確保の観点から課題を有している。
- 石和温泉街においても歩道が整備された道路はごく一部であることに加え、未整備地に隣接する NTT 南側道路（東側）は特に道路幅員が狭く、誘客に向けた整備を行う場合には歩行者・自転車が安全かつ円滑に移動できる道路・街路整備が望まれる。



写真 2 石和・春日居温泉地域における道路の現状（労報橋、郵便局通りの例）

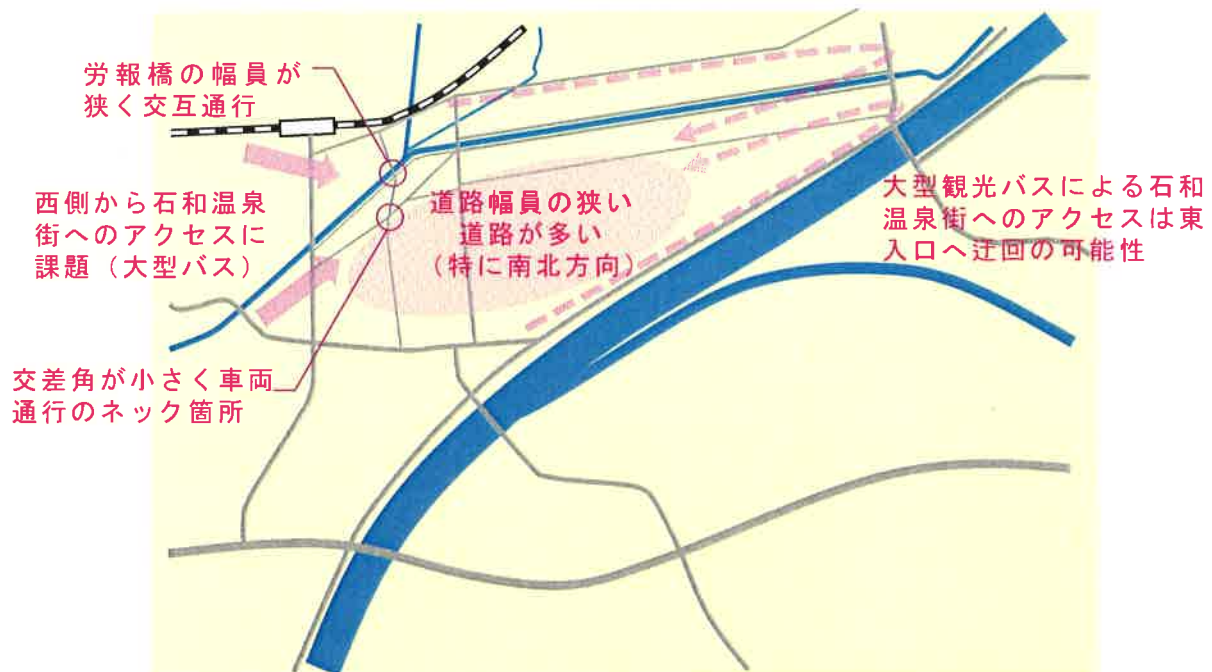


図 6 アクセスに係る現状の課題

②公園整備概略検討

未整備地は石和温泉駅と石和温泉街との間に位置しており、北側には西川・第二平等川が流れる。かつてこの土地はグラウンドや NTT の社宅、独身寮、保養所等として利用されていた場所であり、平成 25 年度までに基礎部を含め建物等は撤去され、現在は NTT 関連企業と NTT ドコモ関連施設が残っている。周辺には石和温泉病院、クアハウス石和、石和北小学校が隣接しているほか、石和温泉駅をはじめ、八田家書院、石和温泉街、モンデ酒造、市部通りが徒歩 10 分圏内（歩行速度 4km/h 程度と想定）と石和・春日居温泉地域の主要施設や観光地へのアクセス性に優れた立地特性を有している。

このような検討対象箇所の立地特性やアンケート調査等により得られた施設整備、空間整備等に対するニーズを踏まえ、公園整備概略検討として利活用方策の検討を行った。

表 4 未整備地の利活用方策（案）

利活用メニュー	概要
農産物直売所 ・マルシェ	特産品等を購入できる場所が限定的であるため、整備により駅及び温泉街周辺における利便性を向上し、立ち寄りスポットを創出する。
レストラン ・カフェ	オシャレなカフェやレストランなど民間事業者の参画を通じ、従来の温泉観光地のイメージの転換、若い世代の誘客を図る。
ミュージアム	滞在型観光に資する主要施設として、当該地域の歴史等にちなんだミュージアムを整備する（戦国時代がテーマ）。
体験施設	ほうとう作りなど石和・春日居温泉地域ならではの体験ができる施設として、観光地としての魅力の向上、立ち寄りスポットの創出を図る。
足湯	既存の足湯を合せた足湯めぐりなど周遊性を高め、滞在型観光に活用する（カフェ等と一体的な整備も考慮）。
公園	地域のイベント会場、親子が楽しめる場、周辺の病院・健康増進施設利用者のリハビリの場等としての活用を想定した公園整備を行う。
駐車場	駐車場整備により、未整備地だけではなく、石和・春日居温泉地域来訪者の利便性向上を図る。



足湯カフェの整備例
(山形県鶴岡市・温海川)

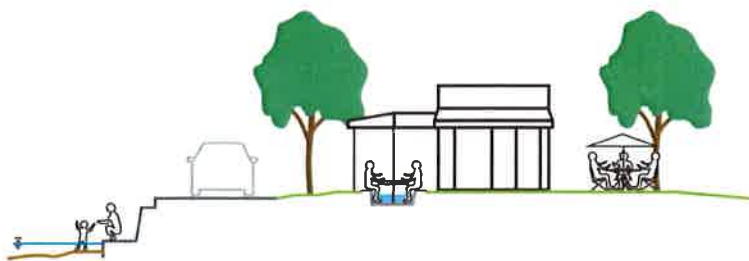


図7 未整備地の利活用イメージ(足湯カフェ)

3. 基盤整備の見込み・方向性

(1) アクセス道路整備

アクセス道路整備については、現状の課題や実現の難易、未整備地の利活用と合せた課題解決の可能性等を総合的に勘案し、基盤整備として①労報橋架け替え、②未整備地東側道路(一部区間)の拡幅、③未整備地内における接続道路整備を行い、課題の解消を図ることが有効であると判断した。

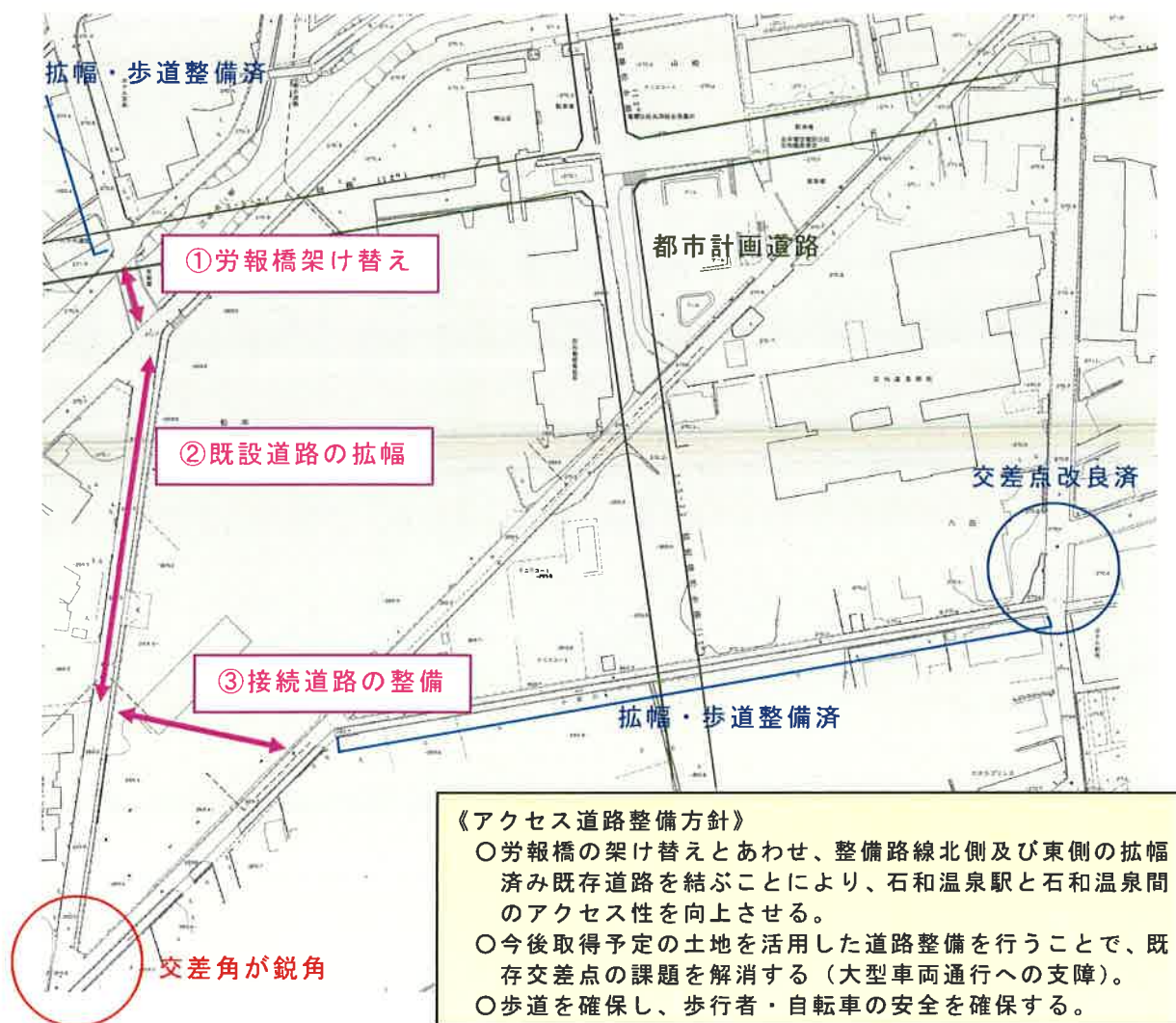


図8 アクセス道路整備方針図



図9 未整備地利活用ゾーニング図

4. 今後の課題

活性化に向けた整備や取り組みの実施にあたっては、以下のような課題が挙げられる。今後はこれらを踏まえつつ、具体的な検討、協議・調整を進めていく。

表5 実現に向けた主な課題

項目	課題
マーケティング施策	○カフェ等の整備・運営にあたっては、民間事業者の参画の見通し等を踏まえた施設整備、運営体制等について具体化していく。
	○足湯と一体となった施設整備など話題性・付加価値を検討する。
	○整備、取り組みとあわせた効果的な情報発信を行う。
アクセス道路整備	○笛吹川における施設整備、利活用は、河川管理者との協議・調整を行いつつ、取り組みを具体化していく。
	○労報橋の架け替えは、都市計画道路整備を考慮の上、河川及び既設道路の接続検討し、設計を行っていく。
未整備地利活用	○接続先道路との位置関係や接続道路整備に伴う現状の道路交通への影響等を考慮し、整備位置等について詳細検討を行っていく。
	○カフェ、マルシェ、体験施設等の整備・運営にあたっては、民間事業者の参画の見通し等を踏まえた施設整備、運営方針・体制等について具体化していく。
	○1年を通じて商品を供給可能な環境整備、地元の食材にこだわったメニュー開発、足湯と一体となった施設整備など、付加価値を与える工夫（魅力付け）が必要である。
	○ミュージアムについては、類似施設等の調査を十分行った上で、施設規模やテーマ、展示・体験内容等を具体化する。
	○駐車場は、周辺道路への影響、来訪客数の見通し等を踏まえた施設規模、配置について検討していく。

